

22254

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.7	0.84

医の倫理として誤っている記述はどれか。

1. 医学研究の科学のおよび社会的利益は被験者の福利よりも優先される。
2. 社会制度が異なっても、患者の権利は同等に守られるべきである。
3. 医学研究においては被験者の自発的同意が必須である。
4. 患者は宗教的支援を受ける権利、拒絶する権利を持つ。
5. 医療従事者は人類の健康を向上させるために知識と良心を捧げる。

10508

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.511	0.67

チーム医療の中心となるのは誰か。

1. 医師
2. 薬剤師
3. 看護師
4. 作業療法士
5. 患者

10310

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.584	1.08

インフォームド・コンセントとは何か。

1. 自らの意思で延命治療を行わないこと
2. 患者の生活の質に重点をおいた医療方針のこと
3. 主治医以外の医師の意見のこと
4. 本人の意思に関係なく、本人の利益のために意思決定すること
5. 患者への十分な説明と同意を得ること

29363

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.158	0.85

研究活動に求められる心構えとして不適切なものはどれか。

1. 研究を始めるにあたり十分な調査を行う。
2. 同じ分野の研究者と討論および評価しあう。
3. 綿密な実験計画を立てる。
4. 実験データは総合的に解釈する。
5. 常に指導者の指示を待つ。

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	100	-3

患者が薬剤を指示どおり服用していることを示す語句はどれか。

1. コンプライアンス
2. エビデンス
3. バイオアベイラビリティ
4. インフォームド・コンセント
5. セカンドオピニオン

22242

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	21.333	-0.23

胎児への出生前診断（染色体異常検査）の材料として通常用いられないものはどれか。

1. 羊水
2. 臍帯血
3. 母体血
4. 胎児血
5. 絨毛

22967

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	99.327	1.19

ギブズ自由エネルギー変化 (ΔG) はエンタルピー変化 (ΔH)、エントロピー変化 (ΔS) 及び絶対温度 (T) を用いてどのように表されるか。

1. $\Delta G = T\Delta S\Delta H$
2. $\Delta G = \Delta H - T\Delta S$
3. $\Delta G = \frac{\Delta S}{T\Delta H}$
4. $\Delta G = \Delta S - T\Delta H$
5. $\Delta G = \Delta H\Delta S - T$

22979

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.251	0.89

固体が液体を経ないで直接気体になる現象はどれか。

1. 気化
2. 昇華
3. 融解
4. 蒸発
5. 潮解

11730

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.332	1.01

「酢酸など弱酸（AH）とその共役塩基（A⁻）の混合溶液は、少量のH⁺またはOH⁻を添加しても、pH変化をわずかに抑える。」の記述は、次のどの作用か。

1. 干渉作用
2. 緩衝作用
3. 静電的相互作用
4. 疎水的相互作用
5. 励起作用

23551

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	98.805	1.06

甲状腺機能検査に用いられる放射性医薬品はどれか。

1. キセノン(¹³³Xe)
2. 塩化インジウム(¹¹¹In)
3. クロム酸ナトリウム(⁶⁴Cr)
4. ケエン酸ガリウム(⁶⁷Ga)
5. ヨウ化ナトリウム(¹²³I)

23648

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.185	0.92

タンパク質分子内のジスルフィド結合形成に関与するアミノ酸はどれか。

1. アラニン
2. ロイシン
3. チロシン
4. システイン
5. リシン

23682

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	98.592	0.87

生体膜の基本構造として最も適切なものはどれか。

1. ミセル
2. 親水コロイド
3. 脂質二重層
4. α-ヘリックス
5. 逆ミセル

489

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2006年	トライアル	11.765	0.37

次の化合物の中で、1気圧下での沸点が最も高いものはどれか。

1. H₂O
2. HF
3. CH₃OH
4. C₂H₅OH
5. CH₃COOH

11448

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	18.229	0.42

以下の物質のうち標準生成エンタルピーが0（ゼロ）であるものはどれか。

1. 水（液体）
2. 二酸化炭素（気体）
3. 窒素（気体）
4. 水蒸気（気体）
5. 食塩（固体）

23447

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	体験受験	9.651	0.42

日本薬局方アスコルビン酸の定量に用いられる標準液はどれか。

1. 水酸化ナトリウム液
2. チオ硫酸ナトリウム液
3. 塩酸
4. 過マンガン酸カリウム液
5. ヨウ素液

23517

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	10.046	0.35

酵素センサーの1つであるグルコースセンサーにおいて、電極上でモニターしている物質はどれか。

1. FAD
2. グルコノラクトン
3. NADPH
4. 過酸化水素
5. グルコン酸

23588

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	体験受験	8.227	0.42

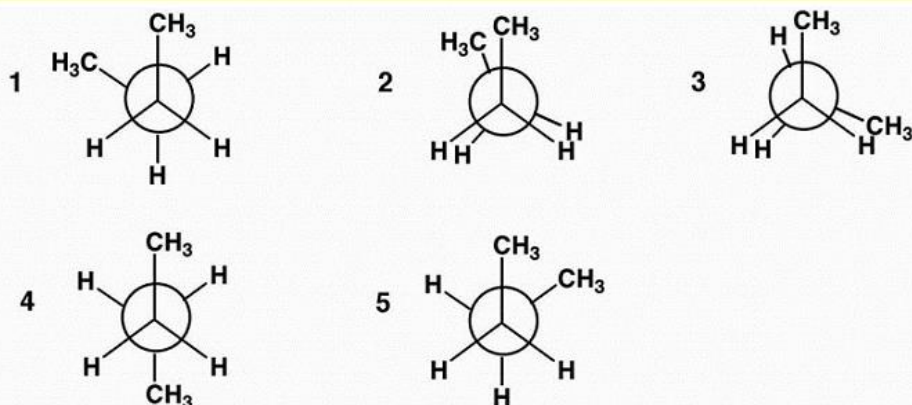
円偏光二色性とは左円偏光と右円偏光で何が異なる現象か。

1. モル吸光係数
2. 極大吸収波長
3. 比旋光度
4. 光の屈折角
5. 偏光面の回転角

1434

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	99.299	1.29

ブタンをニューマン投影式で示したとき最も安定な立体配座はどれか。



29760

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	98.031	0.74

酸素分子の同素体はどれか。

1. 水
2. オゾン
3. 過酸化水素
4. 窒素
5. 水素

12316

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	98.019	0.78

ヘモグロビンの中心金属はどれか。

1. Fe
2. Cu
3. Co
4. Zn
5. Pt

1625

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	99.706	1.48

シスプラチンが含有する元素はどれか。

1. 硫黄
2. 白金
3. ヒ素
4. 鉄
5. モリブデン

2508

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.256	0.71

ゴマンハグサ科に属し、強心配糖体を含む薬用植物はどれか。

1. カノコソウ
2. オウレン
3. ウワウルシ
4. ジギタリス
5. ウイキョウ

24557

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	98.998	0.89

(-)-メントールを主要な成分として含むものはどれか。

1. ハッカ
2. シャクヤク
3. セイヨウイチイ
4. ビャクジュツ
5. コカ

24810

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	本試験	98.423	0.91

副作用として間質性肺炎が報告され、インターフェロン製剤との併用が禁忌となった漢方処方はどれか。

1. 葛根湯
2. 五苓散
3. 六味丸
4. 小柴胡湯
5. 茵陳蒿湯

1599

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2006年	トライアル	7.362	0.48

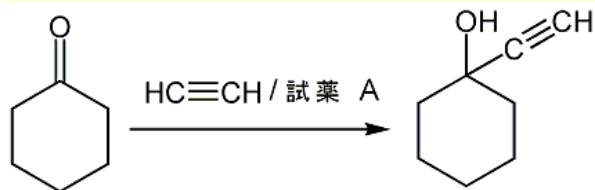
窒素酸化物に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

1. 一酸化二窒素は無色の気体で、折れ線型構造をしている。
2. 一酸化二窒素は熱分解により一酸化窒素と酸素を生じる。
3. 一酸化窒素は麻酔作用があり、全身麻酔薬として用いられている。
4. 一酸化窒素は赤褐色の気体で、銅と濃硝酸との反応で得られる。
5. 一酸化窒素の電子の総和は15個で、常磁性を有している。

12481

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	12.336	0.35

下の反応を行うとき、試薬Aとして適当なものはどれか。



1. KNH_2
2. $(\text{CH}_3)_3\text{COK}$
3. KOH
4. KCl
5. HCl

24083

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	4.651	0.57

β -ジカルボン酸を高温で加熱したときの生成物はどれか。

1. ケトン
2. カルボン酸
3. エーテル
4. アルデヒド
5. 酸無水物

33135

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	18.97	0.49

塩基性が最も大きい化合物はどれか。

1. メチルアミン
2. アニリン
3. ピリジン
4. ジメチルアミン
5. ピロール

12735

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	6.494	0.38

^1H NMRのスピンの結合定数から得られる情報として正しいものはどれか。

1. プロトンの相対的な数
2. プロトンの遮蔽度
3. 水素結合の有無
4. 隣接するプロトンの数
5. H-C-C-H 結合の二面角

12835

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	11.947	0.4

第一級アルコールと反応し有機ハロゲン化合物を主生成物として与える試薬を以下の中から選びなさい。

1. 三臭化リン
2. ヨウ化メチル
3. 三フッ化ホウ素
4. 塩化ナトリウム
5. プロモ酢酸メチル

29832

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	14.024	0.47

グリニャール試薬を用いて第一級アルコールに変換できるのはどれか。

1. アセトアルデヒド
2. アセトン
3. 安息香酸メチル
4. エチレンオキシド
5. 酢酸エチル

24256

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	7.58	0.48

プロピンをアセトンに変換するときに硫酸とともに用いる試薬はどれか。

1. ボラン
2. 四酸化オスミウム
3. 水銀塩
4. 過ヨウ素酸
5. 臭素

24308

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	体験受験	12.648	0.36

アセトアルデヒドをアルドール縮合反応させたときの最終生成物はどれか。

1. 酢酸エチル
2. 2-ブテナール
3. アセト酢酸エチル
4. 2-ブタノン
5. 3-ヒドロキシブタナール

34816

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	19.023	0.36

生体内で機能する複素環であるプリンには、窒素原子が何個含まれているか。

1. 1個
2. 2個
3. 3個
4. 4個
5. 5個

37112

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	12.99	0.47

エストロゲン受容体に対するファーマコフォアをもつのはどれか。

1. テストステロン
2. デキサメタゾン
3. スピロラクトン
4. プロゲステロン
5. スチルベストロール

24596

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	10.582	0.43

酢酸-マロン酸経路により生合成される化合物はどれか。

1. ベルベリン
2. グリチルリチン
3. エモジン
4. シンナムアルデヒド
5. ジギトキシン

13428

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2007年	トライアル	11.656	0.4

ジョチュウギクの殺虫成分はどれか。

1. ロテノン
2. ニコチン
3. ビレトリン
4. カイニン酸
5. サントニン

24686

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2008年	トライアル	12.785	0.41

ドラージェンドルフ試薬を用いて確認試験を行う日本薬局方収載生薬はどれか。

1. エンゴサク
2. ゲンチアナ
3. カンゾウ
4. サンシシ
5. オウギ

13553

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2007年	トライアル	10	0.41

漢方医学における診断法のうち脈診や腹診はどれに属するか。

1. 切診
2. 検診
3. 望診
4. 問診
5. 聞診

2984

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	99.495	0.95

膵臓のランゲルハンス島から分泌され、血糖値を調節するホルモンはどれか。

1. グルカゴン
2. アドレナリン
3. ヒドロコルチゾン
4. チロキシン
5. ノルアドレナリン

2718

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	98.675	0.91

大脳辺縁系で特に記憶の形成と密接に関連する部位はどれか。

1. 黒質
2. 小脳
3. 視床
4. 海馬
5. 橋

25283

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	99.094	0.87

次の核酸塩基のうち、DNAにはなくRNAの構成成分としてのみ存在するものはどれか。

1. アデニン
2. チミン
3. シトシン
4. ウラシル
5. グアニン

3498

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.186	0.93

微小管を構成するタンパク質は下記のうちどれか。

1. チューブリン
2. アクチン
3. ミオシン
4. ケラチン
5. ビメンチン

14446

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.565	0.98

食餌性の血糖量を降下させるホルモンはどれか。

1. グルカゴン
2. アドレナリン
3. インスリン
4. 糖質コルチコイド
5. 成長ホルモン

14937

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.437	0.79

マラリア原虫の主な感染経路として正しいのはどれか。

1. 経口感染
2. 空気感染
3. 性行為感染
4. ハマダラカによる刺咬からの感染
5. 輸血による感染

30127

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	98.185	0.82

抵抗力が低下した宿主が、病原性が低い微生物に感染することを何というか。

1. 垂直感染
2. 水平感染
3. 顕性感染
4. 不顕性感染
5. 日和見感染

3984

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.278	0.92

多剤耐性菌であるMRSaは、どの菌種由来であるか。

1. 大腸菌
2. 赤痢菌
3. 黄色ブドウ球菌
4. 淋菌
5. レジオネラ

25968

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	98.304	0.94

ヘリコバクター・ピロリが引き起こす疾患はどれか。

1. 肝炎
2. 胃炎
3. 脳炎
4. 肺炎
5. 腎炎

13662

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2007年	トライアル	10.574	0.38

表皮において、免疫応答に関与する細胞はどれか。

1. ケラチノサイト
2. マクロファージ
3. ランゲルハンス細胞
4. メラニン細胞
5. メルケル細胞

24892

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	11.574	0.38

血圧調節に関与が大きい血管系はどれか。

1. 大動脈
2. 細動脈
3. 毛細血管
4. 細静脈
5. 大静脈

37300

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	18.293	0.35

非還元性のグルコース誘導体はどれか。

1. グルシトール
2. D-グルクロン酸
3. α -D-グルコサミン
4. α -D-グルコース6-リン酸
5. 2-デオキシ- α -D-グルコース

35031

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	13.737	0.37

逆転写酵素活性を持つものはどれか。

1. DNAポリメラーゼ
2. DNAリガーゼ
3. テロメラーゼ
4. RNAポリメラーゼI
5. DNAトポイソメラーゼ

31776

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	16.574	0.35

酵母のアルコール発酵に関与する酵素はどれか。

1. ビルビン酸デヒドロゲナーゼ
2. ビルビン酸カルボキシラーゼ
3. ビルビン酸デカルボキシラーゼ
4. ビルビン酸キナーゼ
5. ビルビン酸ホスファターゼ

3588

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2006年	トライアル	10.227	0.37

ケトン体を生成するアミノ酸はどれか。

1. グリシン
2. アラニン
3. ロイシン
4. アスパラギン酸
5. アルギニン

31790

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	16.544	0.64

中枢神経系の興奮性のシナプス伝達において、最も主要な神経伝達物質はどれか。

1. アセチルコリン
2. グリシン
3. GABA
4. グルタミン酸
5. セロトニン

33383

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	体験受験	16.179	0.44

ヒトのT細胞に関する記述として、正しいものはどれか。

1. 抗原刺激すると細胞内カルシウムイオン濃度が一過的に上昇する。
2. 細胞表面に免疫グロブリンを発現している。
3. 細胞表面にIgEのFc部分に対する受容体を発現している。
4. グラム陰性細菌を特異的に貪食する。
5. 脾臓内の赤脾髄で未熟型から成熟型に分化する。

4027

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	98.688	1.03

血液凝固に関与するビタミンはどれか。

1. ビタミンD
2. ビタミンK
3. ビタミンA
4. ビタミンB₁
5. ビオチン

15110

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.357	1.05

腐敗菌の酵素によってヒスタミンに変換されるアミノ酸はどれか。

1. ヒスチジン
2. チロシン
3. アルギニン
4. リシン
5. トリプトファン

15175

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.157	0.85

お腹の調子を整える機能をもつ特定保健用食品中の機能成分はどれか。

1. キシリトール
2. フラクトオリゴ糖
3. ジアシルグリセロール
4. キトサン
5. クエン酸リンゴ酸カルシウム

15229

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	98.749	0.9

ジャガイモの発芽部分の有毒成分はどれか。

1. ソラニン
2. テトロドトキシン
3. サイカシン
4. サキシトキシン
5. アコニチン

4741

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.109	0.87

ベンゾ[a]ピレンおよびアフラトキシンB₁に共通する代謝的活性化反応はどれか。

1. エポキシ化
2. 硫酸抱合
3. N-水酸化
4. アルコールの酸化
5. グルクロン酸抱合

20487

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	98.042	0.79

最近のわが国における死因で最も多いのはどれか。

1. 肺炎
2. 悪性新生物
3. 心疾患
4. 脳血管障害
5. 自殺

15460

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.826	1.25

疾病の予防対策のうち、第三次予防に分類されるものはどれか。

1. 生活習慣の改善
2. 健康診断
3. 特定の感染症に対する予防接種
4. 新生児マスキング
5. 脳卒中患者への理学療法

26336

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	99.808	1.9

性行為感染症はどれか。

1. インフルエンザ
2. 破傷風
3. 梅毒
4. 百日咳
5. 結核

33482

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	本試験	99.532	1.01

肥満度を推定する指標のひとつである体格指数 body mass index (BMI) の算出式はどれか。

- 1 $\frac{\text{体重 (kg)}}{\text{身長 (m)}}$
- 2 $\frac{\text{体重 (kg)}}{[\text{身長 (m)}]^2}$
- 3 $\frac{\text{身長 (m)}}{\text{体重 (kg)}}$
- 4 $\frac{\text{身長 (m)}}{\text{腹圍 (m)}}$
- 5 $\frac{\text{身長 (m)}}{[\text{腹圍 (m)}]^2}$

16047

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.581	0.91

イタイイタイ病の原因となった汚染物質はどれか。

1. ポリ塩化ビフェニル
2. ヘキサクロロシクロヘキサン
3. カドミウム
4. メチル水銀
5. ヒ素

4848

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.299	0.99

無毒性量が150mg/kg/dayである農薬の一日摂取許容量として正しい値はどれか。ただし、安全係数を100とする。

1. 0.50 mg/kg/day
2. 0.75 mg/kg/day
3. 1.00 mg/kg/day
4. 1.50 mg/kg/day
5. 3.00 mg/kg/day

16073

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.82	1.05

甲状腺に集積しやすい放射性核種はどれか。

1. ^{90}Sr
2. ^{131}I
3. ^{137}Cs
4. ^{226}Ra
5. ^{239}Pu

16283

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.697	1.02

シックハウス症候群に関連する物質はどれか。

1. ダイオキシン
2. DDT
3. 塩化ビニル
4. ホルムアルデヒド
5. NOx

30073

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	12.777	0.36

肝臓で合成されたトリアシルグリセロールを各組織に運ぶことを主な役割としている血漿リポタンパク質はどれか。

1. キロミクロン
2. 超低密度リポタンパク質 (VLDL)
3. 中間密度リポタンパク質 (IDL)
4. 低密度リポタンパク質 (LDL)
5. 高密度リポタンパク質 (HDL)

37488

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	17.474	0.42

用途名のみでの表示でよい食品添加物はどれか。

1. 甘味料
2. 酸味料
3. 着色料
4. 酸化防止剤
5. 保存料

35225

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	16.492	0.37

下痢性貝毒はどれか。

1. ムスカリン
2. ジノフィシトキシン
3. シガトキシン
4. ベレベトキシンB
5. テトロドトキシン

26177

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2008年	トライアル	14.932	0.54

*Penicillium*属のカビが産生するマイコトキシンはどれか。

1. ルテオスカイリン
2. アフラトキシン
3. ニバレノール
4. ステリグマトシスチン
5. エルゴタミン

33472

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	体験受験	15.97	0.37

新生児マススクリーニングのメーブルシロップ尿症検査における測定物質はどれか。

1. 血中フェニルアラニン
2. 血中ロイシン
3. 血中メチオニン
4. 血中ガラクトース
5. 血中甲状腺刺激ホルモン

35340

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	11.111	0.37

肝がんの発がんプロモーターはどれか。

1. ベンゾ[a]ピレン
2. サッカリン
3. フェノバルビタール
4. アルコール
5. バターイエロー

33507

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	体験受験	15.318	0.35

実質安全量（virtually safe dose; VSD）を目標値として評価する安全性試験はどれか。

1. 28日間反復投与試験
2. 急性毒性試験
3. 2世代繁殖毒性試験
4. 癌原性試験
5. 抗原性試験

33556

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	体験受験	13.123	0.36

環境基準が設定されていない大気汚染物質はどれか。

1. 一酸化窒素
2. 二酸化硫黄
3. 微小粒子状物質
4. 光化学オキシダント
5. テトラクロロエチレン

26806

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.72	1.48

モルヒネの鎮痛作用に関与している受容体はどれか。

1. ヒスタミン H_1 受容体
2. セロトニン $5-HT_1$ 受容体
3. アドレナリン α 受容体
4. アドレナリン β 受容体
5. オピオイド μ 受容体

16998

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	98.141	0.85

喘息治療薬として使用されるアドレナリン β 受容体刺激薬はどれか。

1. グルココルチコイド
2. サルブタモール
3. セラトログラスト
4. クロモグリク酸
5. スプラタスト

25631

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.195	1.05

甲状腺ホルモンの分泌過多に起因する内分泌疾患はどれか。

1. 末端肥大症
2. 尿崩症
3. 糖尿病
4. テタニー症
5. バセドウ病

17132

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.168	0.95

B型・C型慢性肝炎治療薬に用いられる薬物はどれか。

1. インターフェロン α/β
2. ストレプトマイシン
3. テトラサイクリン
4. インターロイキン2
5. インドメタシン

27218

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	本試験	98.504	0.89

バイタルサインはどれか。

1. 皮膚の色調
2. 腹部の形
3. 口唇の色調
4. 運動麻痺
5. 体温

6627

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.638	0.98

腎機能検査の代表的な血液生化学検査項目はどれか。

1. アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)
2. アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)
3. 血液尿素窒素 (BUN)
4. グリコヘモグロビン (HbA1c)
5. 総コレステロール (TC)

18080

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.799	0.84

代表的な呼吸機能検査はどれか。

1. メチラボンテスト
2. 1秒率
3. 耐糖テスト
4. トロンボテスト
5. 赤血球沈降速度

18279

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.602	1.33

動脈硬化の危険因子はどれか。

1. 女性
2. 低尿酸血症
3. 脂質異常症 (高脂血症)
4. 腎不全
5. 貧血

27314

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.013	0.93

血液凝固第VIII因子または第IX因子の先天性欠乏によって生じる疾患はどれか。

1. 紫斑病
2. 血友病
3. 血栓症
4. 悪性リンパ腫
5. 播種性血管内凝固症候群

27365

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	98.704	0.94

ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌に用いられる薬物はどれか。

1. ジアゼパム
2. アモキシシリン
3. ジフェンヒドラミン
4. カプトプリル
5. ノルフロキサシン

7184

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.077	1.03

α -グルコシダーゼを阻害することにより、食後の急激な血糖上昇を抑制する経口糖尿病治療薬はどれか。

1. グリベンクラミド
2. メホルミン塩酸塩
3. ビオグリタゾン塩酸塩
4. ボグリボース
5. インスリン

18638

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.122	1.12

パーキンソン病患者の脳内で特徴的に観察されるものはどれか。

1. 水分代謝の異常を伴う脳浮腫
2. 脳血管障害に起因する異常出血
3. 黒質のドパミン作動性神経細胞の変性
4. 下垂体前葉細胞の異常増殖を伴う甲状腺刺激ホルモンの過剰分泌
5. プラスミノーゲンの異常活性化を伴うグリア細胞死

7312

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	98.212	0.82

アルツハイマー型痴呆（認知症）に特徴的な症状はどれか。

1. 自殺願望
2. 激しい頭痛
3. ジスキネジア
4. 記憶障害
5. 筋固縮

27519

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.089	0.77

以下の耳鼻咽喉に関する疾患の中で回転性めまいを伴うものはどれか。

1. 慢性副鼻腔炎
2. 慢性中耳炎
3. メニエール病
4. 慢性扁桃炎
5. クローン病

7431

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.277	0.96

次のうち主に眼圧の上昇によって視神経や視力に障害をきたす疾患はどれか。

1. 白内障
2. ウイルス性結膜炎
3. 緑内障
4. ぶどう膜炎
5. 細菌性結膜炎

6079

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.449	0.96

葉酸代謝拮抗作用を有する関節リウマチ治療薬はどれか。

1. ロベンザリットニナトリウム
2. メトトレキサート
3. オーラノフィン
4. ヒアルロン酸ナトリウム
5. プシラミン

27618

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	99.364	1.22

ヒアルロン酸ナトリウムが治療に用いられる疾患はどれか。

1. 片頭痛
2. 気管支喘息
3. 変形性関節症
4. パーキンソン病
5. 甲状腺機能亢進症

7688

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	本試験	99.028	0.97

インフルエンザ治療薬はどれか。

1. バンコマイシン
2. イミベネム・シラスタチンナトリウム
3. オセルタミビル
4. ストレプトマイシン
5. ベンジルペニシリンカリウム

26809

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	14.126	0.44

精神的依存性と身体的依存性を共に引き起こす薬物はどれか。

1. メタンフェタミン
2. コカイン
3. バルビツレート
4. 大麻
5. LSD

16733

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2007年	トライアル	12.258	0.51

ドパミンD₂受容体の部分作動薬の作用を持つ統合失調症治療薬はどれか。

1. ハロペリドール
2. スピペロン
3. フルフェナジン
4. リスペリドン
5. アリピプラゾール

37808

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	14.286	0.4

ドパミンD₂受容体およびセロトニン5-HT₂受容体を遮断して統合失調症を改善するものはどれか。

1. アリピプラゾール
2. トラゾドン
3. パロキセチン
4. ハロペリドール
5. ペロスピロン

37852

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	17.391	0.4

アンギオテンシン I の生成を阻害する降圧薬はどれか。

1. アリスキレン
2. エナラプリル
3. エブレネノン
4. プラゾシン
5. ロサルタン

32043

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	19.991	0.56

抗がん薬による悪心・嘔吐を予防するのに使用されるNK₁受容体遮断薬はどれか。

1. アプレピタント
2. グラニセトロン
3. デキサメタゾン
4. ドンペリドン
5. メトクロプラミド

33639

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	体験受験	10.198	0.46

血糖依存的にインスリンの分泌を促進する糖尿病治療薬はどれか。

1. グリベンクラミド
2. ミグリトール
3. ビオグリタゾン
4. ナテグリニド
5. リラグルチド

38053

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	16.082	0.42

徐脈性不整脈の治療に用いられるのはどれか。

1. アミオダロン
2. イソプレナリン
3. プロプラノロール
4. ベラパミル
5. リドカイン

33750

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	11.409	0.43

前立腺肥大症の尿閉期に対して禁忌となっている薬物はどれか。

1. アリルエストレノール
2. オキシブチニン
3. クロルマジノン
4. タムスロシン
5. ナフトビジル

33754

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	体験受験	11.054	0.42

間質性肺炎でみられるのはどれか。

1. 肺野の透過性亢進
2. 1秒率の低下
3. NSE（神経特異エノラーゼ）増加
4. KL-6（シアル化糖鎖抗原）増加
5. α 1-アンチトリプシン欠損

18601

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2007年	トライアル	19.091	0.58

高尿酸血症治療薬プロベネシドの作用を減弱させる薬物はどれか。

1. アスピリン
2. コルヒチン
3. ナプロキセン
4. アロプリノール
5. プレドニゾン

18909

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2007年	トライアル	12.258	0.43

テトラサイクリン系抗菌薬が適用できる感染症はどれか。

1. ヘリコバクター・ピロリー菌感染症
2. 肺結核
3. つつが虫病
4. 多剤耐性緑膿菌感染症
5. 肺アスペルギルス症

14948

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2007年	トライアル	18.71	0.46

オセルタミビルリン酸塩の作用点はどこか。

1. 脱殻
2. 逆転写
3. DNA合成
4. タンパク質合成
5. 発芽・放出・遊離

33789

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	体験受験	10.485	0.46

閉経後乳がんの治療に用いられる医薬品はどれか。

1. ラロキシフェン
2. ゴセレリン
3. レトロゾール
4. ビカルタミド
5. リュープロレリン

30247

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	体験受験	24.877	0.24

NMDA受容体に結合する静脈麻酔薬はどれか。

1. チオベンタール
2. プロポフォール
3. ミダゾラム
4. ケタミン
5. フェンタニル

5847

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	22.519	0.24

糖質コルチコイドの抗炎症作用に寄与するタンパク質はどれか。

1. リボコルチン1
2. シクロオキシゲナーゼ-2
3. ホスホリパーゼA₂
4. インターフェロンγ
5. インターロイキン2

32159

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	21.37	0.24

急性肺炎の初期に上昇する血清酵素はどれか。

1. エラスターゼ
2. ペプシン
3. アミラーゼ
4. リパーゼ
5. トリプシン

16494

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.34	0.85

薬物が全身循環血中から各組織に移行する過程はどれか。

1. 溶解
2. 吸収
3. 分布
4. 代謝
5. 排泄

16552

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.295	0.82

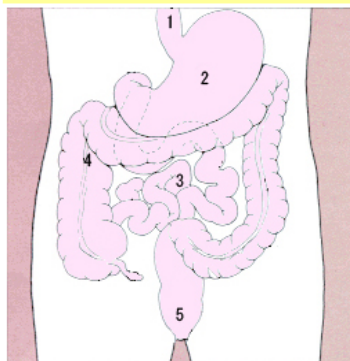
次の臓器又は組織のうち、経口投与された薬物が最初に到達する部位はどれか。

1. 肝臓
2. 筋肉
3. 皮膚
4. 脂肪組織
5. 骨

6113

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.269	1.02

経口投与した薬物の主な吸収部位である小腸はどれか。



17452

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	99.023	0.97

中枢性尿崩症治療薬デスマプレシン酢酸塩の投与剤形として、正しいものはどれか。

1. 舌下錠
2. 点鼻液
3. 坐剤
4. エアゾール剤
5. 軟膏剤

15645

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.873	0.94

ヒトの肝ミクロソームで最も含量の多いシトクロムP450分子種であり、ヒトの薬物代謝に最も寄与が大きい分子種はどれか。

1. CYP1A2
2. CYP2C19
3. CYP2D6
4. CYP2E1
5. CYP3A4

16508

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.947	1.09

肝による初回通過効果を受ける可能性のある投与方法はどれか。

1. 経口投与
2. 経鼻投与
3. 経肺投与
4. 経皮投与
5. 注射投与

17883

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.864	0.92

ある薬物を患者に静脈注射したところ、血中薬物消失半減期は6時間であった。全身消失速度定数(hr^{-1})の値に最も近いのはどれか。ただし、 $\ln 2=0.693$ とする。

1. 0.1
2. 0.2
3. 0.3
4. 0.4
5. 0.5

17940

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	98.775	1.01

薬物1000 mgを静注したとき、血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)は20 mg·min/Lであった。全身クリアランスはいくらか。

1. 20 L/min
2. 30 L/min
3. 50 L/min
4. 80 L/min
5. 100 L/min

33985

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	本試験	99.711	1.25

次の局方製剤のうち無菌製剤はどれか。

1. 散剤
2. 吸入剤
3. 注射剤
4. 含嗽剤
5. シロップ剤

20126

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.469	1.26

医薬品溶液や懸濁液などをガスで噴出して用いる製剤はどれか。

1. エリキシル剤
2. バップ剤
3. リモナーゼ剤
4. エアゾール剤
5. リニメント剤

20167

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.327	0.85

製剤中の主薬含量均一性を評価するための試験はどれか。

1. 過酷試験
2. 加速試験
3. 製剤均一性試験法
4. 溶出試験法
5. 不溶性微粒子試験法

27029

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	18.386	0.57

イミプラミンからデシプラミンへの代謝様式はどれか。

1. 酸化反応
2. 還元反応
3. 加水分解反応
4. 抱合反応
5. 脱抱合反応

36095

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	16.584	0.32

乳剤を放置したときに起こりうる状態変化のうち、不可逆的なのはどれか。

1. クリーミング
2. ケーキング
3. コアセルベーション
4. 塩析
5. 合一

33953

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	体験受験	17.28	0.3

製剤の腸溶性コーティングに使用可能な添加剤はどれか。

1. エチルセルロース
2. メチルセルロース
3. セラセフェート
4. ヒドロキシプロピルメチルセルロース
5. カルメロース

36111

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	15.789	0.32

臨界相対湿度 (CRH)が70%である粉体Aと60%である粉体Bがある。A 1.0 gとB 4.0 gを混合したときに予想されるCRHに最も近い値はどれか。

1. 20 %
2. 30 %
3. 40 %
4. 50 %
5. 60 %

38458

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	15.833	0.33

多量の空気で吹き上げた粉体に、結合剤溶液を噴霧し、粒子の衝突により凝集を促す造粒機はどれか。

1. 押し造粒機
2. 流動層造粒機
3. 攪拌造粒機
4. 転動造粒機
5. 噴霧乾燥造粒機

30671

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	体験受験	15.835	0.33

フィルムコーティングした徐放性部を速放性部で包んだ糖衣錠はどれか。

1. スバスタブ
2. スパンスル
3. スパンタブ
4. レベタブ
5. ロンタブ

28255

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	18.93	0.31

生分解性の高分子を用いて調製した、徐放性マイクロスフェアに用いられる製剤材料はどれか。

1. ポリ乳酸
2. キチン
3. シクロデキストリン
4. ヒプロメロースフタル酸エステル
5. リン脂質

27756

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.066	0.84

医薬品メーカーに在籍し、担当エリアの病院や診療所、開業医向けに自社の医薬品に関する情報や特長、効能などを提供する職種をなんと呼ぶか。

1. CRC
2. MR
3. CRA
4. SMO
5. MS

19465

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.611	0.98

EBMの基本概念について最も適切な記述はどれか

1. マニュアル化された医療
2. 遺伝子レベルの研究に基づく医療
3. 栄養管理を中心とする医療
4. 科学的根拠に基づく医療
5. 医療費削減を目的とした医療

8055

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.165	0.85

「お薬手帳」について、正しい記述はどれか。

1. かかりつけ薬局で記録し保管する
2. 患者が利用する薬局ごとに作成する
3. 医師にみせる必要はない
4. 処方・服薬情報の一元管理に利用できる
5. 大衆薬の服薬情報は記載しない

8073

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.417	0.83

薬剤管理指導記録を問題指向型システム（POS）のもとにSOAPで記録する場合、S（Subjective）に該当するものはどれか。

1. 脈拍
2. 医師への薬剤変更の提案
3. 血清クレアチニン値
4. 患者への薬効の説明
5. 眠れないとの患者の訴え

19763

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.279	1.03

次の薬物のうち、食直前に服用するものはどれか。

1. インドメタシン
2. メナテトレノン
3. シンバスタチン
4. アカルボース
5. エチドロン酸二ナトリウム

32248

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	11.015	0.38

医薬品情報にかかわる制度として、医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準(GPSP)に定められているものはどれか。

1. 市販直後調査
2. 使用成績調査
3. 副作用・感染症報告制度
4. 安全性定期報告制度
5. 再審査制度

35988

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	14.758	0.32

EBMの考えに基づいたシステマティックレビューの結果を収載したデータベースはどれか。

1. Cochrane Library
2. MEDLINE
3. JMEDPlus
4. EMBASE
5. Up To Date

27984

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2008年	トライアル	13.014	0.38

抗がん薬イリノテカンを使用するときに注意すべき遺伝子多型の存在する酵素はどれか。

1. CYP2D6
2. UGT1A1
3. CYP2C9
4. UGT2B4
5. CYP3A4

19692

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	15.278	0.34

Child-Pugh分類は次のうちの疾患の重症度分類か。

1. 心疾患
2. 精神疾患
3. 肝疾患
4. 腎疾患
5. 骨粗しょう症

30691

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	本試験	99.098	0.9

ジェネリック医薬品の役割として正しいものはどれか。

1. 副作用の軽減
2. 医療費の削減
3. 治療方法の画一化
4. 効能・効果の増強
5. 医薬品在庫数の減少

8707

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.141	0.96

GCPの記述について正しいものはどれか。

1. 医薬品の臨床試験の実施の基準
2. 医薬品の安全性に関する非臨床試験の実施の基準
3. 医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準
4. 医薬品の製造販売後調査及び試験の実施の基準
5. 医薬品の供給と品質確保の基準

20849

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.875	1.17

薬剤師法に規定されている薬剤師の任務は、「医薬品の供給」、「薬事衛生」の他もうひとつはどれか。

1. 看護
2. 診察
3. 検査
4. 調剤
5. 病院経営

28635

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	99.383	1.21

地域薬局に関して正しいのはどれか。

1. 薬局は医療提供施設にふくまれない。
2. 薬局における一般用医薬品の供給は望ましくない。
3. かかりつけ薬局における役割の一つは薬歴管理である。
4. 医療連携体制の中で薬局には調剤を担う役割のみが求められる。
5. 第一類医薬品に係る情報提供は登録販売者が行う。

28675

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	99.386	1.03

介護保険制度の居宅サービスの項目の中で薬剤師（薬局）が取り組めるものはどれか。

1. 訪問介護
2. 短期入所療養介護
3. 特定施設入所者生活介護
4. 居宅療養管理指導
5. 訪問リハビリテーション

9392

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.315	0.82

医薬分業において患者のメリットになる事柄はどれか。

1. 医療費が安くなる。
2. 他の医療機関との重複投薬のチェックが期待できる。
3. 処方日数を自分で選択できる。
4. 医薬品を自分で追加処方できる。
5. 処方せんを複数回使用できる。

28759

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	99.403	1.13

セルフメディケーションにおけるOTC薬の適正使用に際し、薬剤師が果たすべき役割でないのはどれか。

1. OTC薬使用の可否判断と必要に応じた受診勧奨
2. OTC薬の市販後調査への協力
3. OTC薬大量購入の推奨
4. OTC薬の服薬説明
5. OTC薬の適切な選択の相談応需

32433

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	16.083	0.3

厚生労働省集計の疾患別死亡数において、1970年前後まで減少傾向、その後増加に転じた疾患はどれか。

1. 心疾患
2. 脳血管疾患
3. 結核
4. 肺炎
5. 悪性新生物

38496

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	18.043	0.48

GMPで規定されているものはどれか。

1. モニタリング
2. バリデーション
3. 一般毒性試験
4. 特定使用成績調査
5. 市販直後調査

9096

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2007年	トライアル	16.667	0.33

麻薬取扱者のうち、厚生労働大臣が免許を与えるものはどれか。

1. 家庭麻薬製造業者
2. 麻薬卸売業者
3. 麻薬施用者
4. 麻薬管理者
5. 麻薬研究者

32584

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	17.258	0.31

保険薬局の指定の申請を受け付ける機関はどれか。

1. 厚生労働省
2. 社会保険庁
3. 都道府県監査事務局
4. 都道府県社会保険事務局
5. 地方厚生局

32605

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	体験受験	13.572	0.34

医療用医薬品としてのみ販売されている禁煙補助薬はどれか。

1. ニコチン貼付剤
2. ニコチンガム
3. ミノキシジル
4. フィナステリド
5. バレニクリン酒石酸塩

21266

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.605	0.85

薬剤師の役割について誤っているものはどれか。

1. 適切な処方
2. 正確な調剤
3. 正確な調剤鑑査
4. 必要に応じた疑義照会
5. 分かりやすい服薬指導

28809

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	98.051	0.82

がん患者などの精神面のフォロー、疼痛管理などを行う医療チームを示す用語はどれか。

1. 緩和ケアチーム
2. 褥瘡対策チーム
3. ICT (Infection Control Team)
4. NST (Nutritional Support Team)
5. 薬業連携

28830

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2012年	本試験	99.189	1.04

医薬分業における患者の利点に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 以前に処方された薬であれば、処方せん無しで購入できる。
2. 服用薬に対する“知る権利”を確保できる。
3. 十分な説明・服薬指導が受けられる。
4. 薬の重複投与を避けることができる。
5. 薬局を自由に選択できる。

9566

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.083	0.88

処方せんの使用期間は、処方せん交付日を含めて何日間か。

1. 1日間
2. 4日間
3. 7日間
4. 14日間
5. 21日間

9629

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	99.106	0.9

一般の処方せんに加えて、外来患者に交付する麻薬処方せんに必要とされる記載事項はどれか。

1. 患者氏名・年齢
2. 患者の住所
3. 処方せん使用期間
4. 処方せん発行年月日
5. 医師氏名の記名押印または署名

21541

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	本試験	98.939	0.84

嘔気・嘔吐の症状を訴えている患者に対して薬剤を投与する際に適した剤形はどれか。

1. 錠剤
2. カプセル剤
3. 散剤
4. 水剤
5. 坐剤

22020

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2011年	本試験	98.094	0.82

ゲフィチニブを投与されている患者が発熱、乾性咳嗽、呼吸困難を訴えた。その際、念頭に置くべき疾患はつぎのどれか。

1. アレルギー性鼻炎
2. 肺腫瘍の増大
3. 間質性肺炎
4. 気管支喘息
5. インフルエンザ感染

7210

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	本試験	98.202	0.97

HMG-CoA還元酵素阻害薬の副作用として注意を要するものはどれか。

1. 血圧低下
2. 横紋筋融解症
3. 間質性肺炎
4. 呼吸抑制
5. 心筋梗塞

10359

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	本試験	99.8	1.6

ワルファリン服用中の患者が避けるべき食品はどれか。

1. にんじん
2. トマト
3. 納豆
4. キャベツ
5. タマネギ

36416

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2013年	体験受験	15.217	0.31

エバルレスタットの服用時期はどれか。

1. 毎食前
2. 毎食直前
3. 毎食後
4. 毎食直後
5. 就寝前

30912

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	体験受験	19.82	0.43

疑義照会が必要な処方はどれか。

1. シルденаフィルクエン酸塩とカルシウム剤が処方された。
2. 高カロリー輸液療法に、ビタミンB 1が併用された。
3. 食道狭窄のある患者にアレンドロン酸ナトリウム水和物が処方された。
4. 緑内障の患者にβ遮断薬の点眼剤が処方された。
5. ワルファリンカリウムを服用している患者に、HMG-CoA還元酵素阻害薬が処方された。

34222

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2014年	体験受験	16.736	0.32

添付文書に前立腺肥大など下部尿路閉塞性疾患に禁忌と記載されている薬剤はどれか。

1. プロメタジン塩酸塩
2. レボメプロマジンマレイン酸塩
3. ベルフェナジンマレイン酸塩
4. プロクロルペラジンマレイン酸塩
5. クロルプロマジン塩酸塩

30938

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2010年	体験受験	15.438	0.32

医薬品の品質管理に関する記述で正しいものはどれか。

1. 無菌製剤はすべて密封容器に保存する。
2. PTP包装はプラスチックフィルムで四方をシールしたものである。
3. インスリン製剤はすべて密封容器に入れて凍結を避けて保存する。
4. 有効期間は容器に直接表示しなくてもよい。
5. 使用期限についてはすべて表示の義務がある。

29067

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2008年	トライアル	16.09	0.32

血液製剤投与によるGVHDを予防するために、放射線照射が必要な製剤はどれか。

1. 赤血球製剤
2. 新鮮凍結血漿
3. 人血清アルブミン製剤
4. 人免疫グロブリン製剤
5. 人血漿たん白製剤

21968

出題年度	試験種別	正答率	項目識別力
2009年	体験受験	19.205	0.33

揮発性があり、蒸気を吸入しないよう注意が必要なものはどれか。

1. グルタラル
2. ポビドンヨード
3. 塩化ベンザルコニウム
4. グルコン酸クロルヘキシジン
5. 次亜塩素酸ナトリウム